
貸し倉庫

蜜蜂

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
貸し倉庫

【コード】
N0466I

【作者名】
蜜蜂

【あらすじ】
ある男は貸し倉庫をさがしていた。しかし男のさがしている倉庫は……。

数日前、自宅では友人と話しをした。

「やはり金があると、色々な物がほしくなる。私のような大会社の社長は特にだ」

と私が言うと、友人が不機嫌そうに言った。

「なんだ、悩みがあると言うから、相談に来てやったのに。自慢話をするのなら、他をあたってくれ」

椅子から立ち、玄関へ向かおうとする友人に、私はあわてて言った。

「いや、すまない！ 裕福な生活をしていると、つい見栄を張ってしまふ。しかし悩みというのは、その事なんだ」

私の真剣な顔に、友人はしぶしぶ椅子に座った。

「君も知つてのとおり、私は大金持ちだ。だがそのせいで困った事になってしまった」

「なにがだ。君は、ほしいものをすべて買うことができるし、この家は物にあふれている」

友人はまだ怒っているようだったが、私は続けた。

「それなんだよ！ 私は今まで、ほしい物はすべて手に入れてきた。そして、気がついたら私が買った物は、ものすごい量になっていたんだ」

すると、友人は急に笑顔になり、少し笑って言った。

「なるほど。だから貸し倉庫の会社に働いている俺に、連絡してきたのか」

「ああ、そうなんだ」

「それで、どのくらいの広さの倉庫がいい？」

そう言って友人は胸ポケットから手帳とペンを取り出した。

「まってくれ、実はある問題があるんだ」

「なんだ？俺は会社でも結構上の位だから、多少の問題なら話がつ

くぞ」

私は目をそらして言った。

「それでは言うが、月くらの広さの倉庫なんて……」

私が友人の方へ目をやると、友人は啞然としていた。それを見た私は、不安になり言った。

「やはり、そんな倉庫は無いか……」

しかし、友人の反応は意外なものだった。

「なんだそんなことか」

その、あまりにもあっさりとした言葉に、私は息をのんだで言った。

「あるのか？」

そして今日。私は友人に教えてもらった、ある店に訪れた。

その店は、ある都会の小さなビルの六階にあり、店というよりは事務所に近いものだった。

私はとりあえず、入り口にいる受付の女性に声をかけた。

「すみません、ここはA社でしょうか？」

「はい、そうです。」

「あの、私はとても広い倉庫が必要なんです」

「すみません。当社は一般のお客様には、貸し出しを行っていません」

受付の女性の答えを聞いて、友人に書いてもらった紹介状を差し出した。

「R社とお知り合いの方ですか！すみません！」

友人の会社はどうやらこの会社と親しいらしい。

「では奥の方へ」

女性に案内され、いくつもある部屋のひとつに入った。

そこには誠実そうな青年がいて、机をはさんで置いてある椅子の片方に座っていた。

私はもう片方の椅子に座り言った。

「あの、月ぐらいの広さの倉庫なんてありますか？」

友人を疑ったわけではないが、やはり心配だった。しかし、
も不安はすぐに消えた。

「はい。当社の倉庫は広さも、多さも、世界一です」

私はうそで無いと分かり、今まで思っていたことを聞いてみた。

「もしかして倉庫は地下に？」

「いいえ。地下などには、ありませんよ」

青年のきつぱりとした言葉を聞いて、少しショックだった。なぜなら、結構自信があつたからだ。しかし、まだ考えてきている。

「分かった！海の中だ！」

「いいえ」

「では、きつと、空にあるんだ！」

「いいえ、でも少し惜しいですね」

青年は苦笑いしながら言った。

「宇宙です。この宇宙にある惑星のどれかを一つだけ借りることができます」

私はとても驚いた。いや、驚くという言葉では表せないくらい。

まさか、そんな場所を借りることができるなんて！

「そ、それは、本当ですか!？」

「はい。こちららも商売ですから。うそはつきません」

「どうやって物を遠くの惑星に？」

「それは企業秘密ですから。答えられません。ただ物は絶対壊れ
ませんし、特定の物だけを引き取ることも可能です」

まさか、自分が知らないところで、ここまで科学が進歩している
とは……

それに、なんとすばらしい会社なのだろう。この会社の技術者を数
人ももらいたいぐらいだ。

そんなことを考えていると、青年が言った。

「それでは、好きな惑星を選び、契約を」

次の朝、私は新聞を見て、目を見開いた。そこには、新たな惑星の発見についてと、そこへ向かう調査船の完成について。
「この惑星は……」

(後書き)

初投稿です！最後まで読んでいただき、ありがとうございました。
小説を書くのがとても苦手ですが、これからもよろしく願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0466i/>

貸し倉庫

2010年10月23日01時39分発行